

ひだか

～家畜の衛生と防疫～

第117号 令和5年(2023年)6月

日高家畜衛生防疫推進協議会

北海道日高家畜保健衛生所

TEL:0146-42-1333 FAX:0146-42-0542

ホームページ <https://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ds/khe/>



高病原性鳥インフルエンザの発生状況

カモなどの野生の水鳥は鳥インフルエンザウイルスに感染していることがあるため、野生の水鳥が秋から春にかけて日本に飛来するシーズンは、国内の家きん飼養農場で高病原性鳥インフルエンザが発生するリスクが高くなります。

今シーズンは、国内の家きん飼養農場において高病原性鳥インフルエンザが 26 道県 84 事例発生しました。別表のとおり道内では5事例発生し、当所からも職員を派遣し防疫対応に当たりました。

次のシーズンに備え、野生動物の侵入防止設備の設置、点検、修繕を徹底してください。

鶏等への感染リスクを低減させるために

- ◆ 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等の実施
- ◆ 衛生管理区域専用の衣類及び靴の設置、使用
- ◆ 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等の実施
- ◆ 家きん舎に立ち入る者の手指消毒等の実施
- ◆ 家きん舎ごとの専用の靴の設置、使用
- ◆ 野生動物の侵入防止のネット等の設置、点検、破損部の修繕
- ◆ ねずみ及び害虫の駆除

道内における今シーズンの
高病原性鳥インフルエンザ発生状況

発生月	発生場所	飼養羽数
R4.10	厚真町	肉用鶏約17万羽
R4.11	伊達市	肉用鶏約15万羽
R5.3	千歳市	採卵鶏約55.8万羽
R5.4	千歳市	採卵鶏約39万羽
R5.4	千歳市	採卵鶏約31万羽



鶏の死体をフレコンバックにつめる作業員(千歳市)

口蹄疫・アフリカ豚熱の発生状況

【口蹄疫】

国内では平成22年の宮崎県での発生以降は確認されていませんが、アジアでは継続的に発生しています。近隣国である韓国では令和5年5月に4年ぶりの発生が確認されており、国内への侵入リスクが極めて高い状況です。過去の国内発生は、韓国における発生に続発しており、特に警戒が必要です。

【アフリカ豚熱】

国内での発生は確認されていませんが、東欧・アジア諸国を中心に発生が継続しています。令和5年2月にはシンガポールにおいて新たに発生が確認され、近隣国である韓国でも発生が相次いでいます。

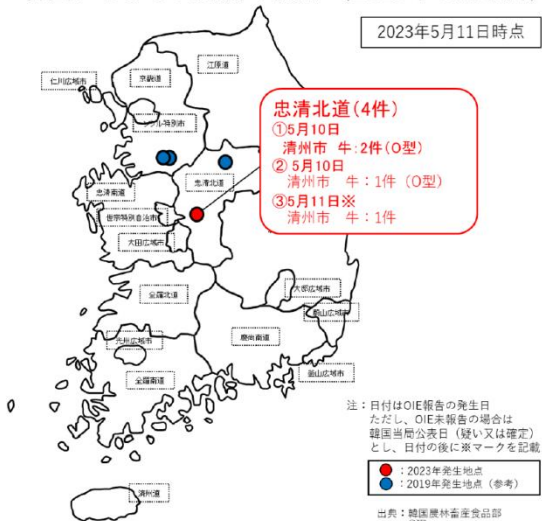
また、発生国からの旅客により国内の空港に持ち込まれた豚肉製品の検査の結果、延べ109例の遺伝子陽性事例が確認されています(令和5年2月17日現在)。その一部からは実際に感染力を持つ生きたウイルスが検出されており、国内への侵入リスクが高い状況が続いています。

飼養者や畜産関係者の皆様におかれましては、次の発生予防対策の徹底をお願いします。

- ◆ 出入口への看板の設置などにより、関係者以外の立入を制限
- ◆ 農場専用の靴・衣服を着用
- ◆ 持ち込む物品や出入りする車両の消毒を徹底
- ◆ これら疾病の発生国への渡航は可能な限り控える
- ◆ 発生国からの国際郵便物に注意
- ◆ 疑わしい症状があれば直ぐに家畜保健衛生所へ通報

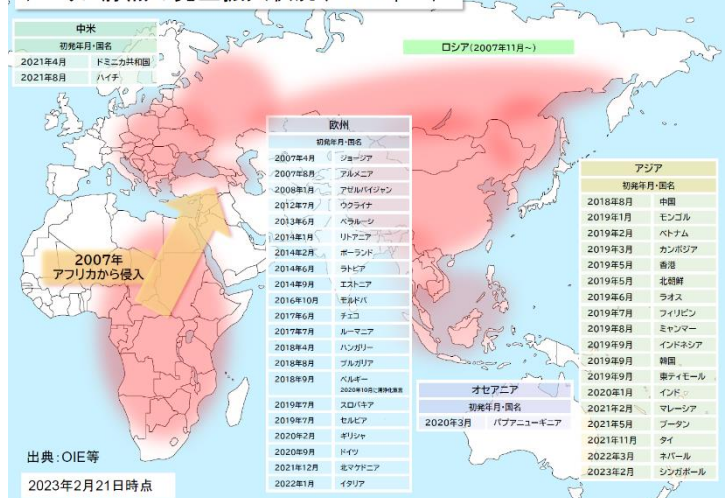


韓国における口蹄疫の状況 (2023年5月以降)



口蹄疫に関する情報: 農林水産省より
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku.yobo/k/fmfd/index.html>

アフリカ豚熱の発生拡大状況(2007年~)



アフリカ豚熱(ASF)について: 農林水産省より
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf.html>

令和5年繁殖シーズン馬鼻肺炎発生状況

馬鼻肺炎は妊娠後期の流産の他に、生後1～3日で死亡する虚弱馬が出生する場合があります(生後直死)。

馬鼻肺炎等の感染症による異常産の場合、胎子や羊水に大量の病原体が含まれているため、異常産や虚弱馬が生まれた場合には、速やかに**流産(分娩)場所、胎子、母馬を消毒**し、獣医師の指示を受け、胎子及び胎盤をビニール袋などで密閉し、当所に搬入してください。

本病発生時には、当所は臨床獣医師と連携して発生農場で疫学調査等を行い、継続発生の予防対策を実施しますので、ご協力よろしくお願いします。

流産・生後直死 4 町 8 戸 9 頭発生
(令和5年6月1日現在)

発生月	発生頭数					
	R3シーズン		R4シーズン		R5シーズン	
9月	1					
10月					1	
11月	1		1			
12月	3		3		2	
1月	3		2		3	
2月	4		4		1	
3月	2		8		2	
4月	2		2			
5月						
総発生数 (内継続発生数)	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
	13 (2)	16 (5)	12 (5)	20 (13)	8 (1)	9 (2)

生まれる子馬を守るために

- ★妊娠馬にストレスを与えない飼養管理 → 群の入れ替えや移動を控える！
- ★ワクチン接種の励行 → 適切な時期に接種！
- ★隔離飼育 → 「妊娠馬」と「あがり馬や育成馬」を分けて管理し、伝播を阻止！
- ★馬鼻肺炎ウイルスに効果のある消毒薬の使用 → 餌桶や器具等を清潔に！

消毒薬の一例

逆性石けん(商品名:パコマ、クリアキル 等)

塩素系消毒薬(商品名:クレンテ、アンテックビルコン S 等)

アルカリ剤(消石灰 等)

少し詳しく！

本病ウイルスは馬の体内に潜伏感染しており、輸送や寒冷感作等のストレスにより「再活性化」することがあります。

その際、無症状ながら鼻からウイルスを排出し、馬具・餌桶等の環境や人の手などを汚染することで、他の馬への感染源になる可能性があります。

本病ウイルスは、環境によっては30日以上生残するとの報告もあり、平時からの清掃消毒で馬の飼養環境を清潔に保つことが重要です。

生乳・畜肉への抗菌性物質・医薬品残留事故

令和4年度、日高管内では、生乳への抗菌性物質の残留、畜肉への動物用医薬品(抗炎症薬)の残留ともに各1件発生しました。

生乳への抗菌性物質事故の発生原因は、依然として「マーキングの見落としによる治療牛の誤搾乳」が多くを占めます。今一度、自身の農場の搾乳作業を点検し、事故の発生防止に努めましょう。

- ★ 治療牛には**複数のマーキング**！
(カラースプレー&マークバンドなど)
- ★ 搾乳前に搾乳者間で治療牛の確認・共有！
(ホワイトボード等の活用)
- ★ 治療牛は、可能な限り隔離を！



搾乳前の確認が
大事だよ！

畜肉への動物用医薬品残留事故を防止するため、出荷前には必ず投薬歴の確認を実施し、と畜検査申請時に投薬歴の申告の徹底をお願いします。

家畜伝染病予防法第5条に基づく牛ヨーネ病検査

今年度は、下記のとおり実施を予定しています。日程の調整、検査補助等関係機関の皆様にはご協力をお願いします。

対象：24 か月齢以上の搾乳牛、24 か月齢以上の肉用繁殖牛
実施地域：

年度	町名(地区)
令和3年度	平取町
令和4年度	日高町(門別地区)
令和5年度	日高町(日高地区)・浦河町・様似町・えりも町
令和6年度	新冠町
令和7年度	新ひだか町

対象：種雄牛

実施地域：管内全域(定期種畜検査のための衛生検査に併せて実施)

道内・管内における伝染病発生状況

家畜伝染病(法定伝染病)

病名	家畜の種類	令和5年(2023年)※6月1日現在			令和4年(2022年)			北海道		
		日高			日高					
		戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数	群数
ヨーネ病	牛	18	75	日高町 新冠町 浦河町 えりも町 新ひだか町	22	137	日高町 新冠町 浦河町 えりも町 新ひだか町	224		997
ヨーネ病	めん羊							1		4
ヨーネ病	山羊							4		18
腐蛆病	蜜蜂							1		1
高病原性鳥インフルエンザ	鶏							4		5
高病原性鳥インフルエンザ	だちょう							2		2
高病原性鳥インフルエンザ(疑似患者)	鶏							5		827,105
高病原性鳥インフルエンザ(疑似患者)	だちょう							2		585

届出伝染病

病名	家畜の種類	令和5年(2023年)※6月1日現在			令和4年(2022年)			北海道		
		日高			日高					
		戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数	群数
牛ウイルス性下痢	牛							29		62
牛ウイルス性下痢(疑症)	牛							2		2
牛伝染性リンパ腫	牛	15	16	日高町 平取町 新冠町 新ひだか町	34	48	日高町 平取町 新冠町 新ひだか町	255		707
牛伝染性リンパ腫(疑症)	牛							1		1
牛丘疹性口炎	牛							1		1
破傷風	牛				3	3	日高町 平取町 新ひだか町	7		7
	馬									
破傷風(疑症)	牛							2		3
	馬	1	1	浦河町						
気腫疽	牛							1		2
気腫疽(疑症)	牛									
牛伝染性鼻気管炎	牛							1		4
サルモネラ症	牛	1	1	日高町	2	2	日高町 新ひだか町	148		362
	豚									
サルモネラ症(疑症)	牛									
カンピロバクター症	牛									
ネオスポラ症	牛							1		1
アカバネ病	牛							1		1
馬鼻肺炎	馬	異常産6	異常産6	日高町 新冠町 浦河町 新ひだか町	異常産12 死亡1	異常産20 死亡1	日高町 新冠町 浦河町 新ひだか町	16		24
馬バラチフス	馬							3		15
豚丹毒	豚	1	1	新冠町				6		37
山羊関節炎・脳炎	山羊				1	1	日高町	2		3
豚流行性下痢	豚							1		9
豚繁殖・呼吸障害症候群	豚							1		7
豚流行性下痢(疑症)	豚									
豚赤痢	豚									
伝染性気管支炎	鶏							1		4
鶏マイコプラズマ病	鶏									
バロア病	蜂							20		498
アカリシダニ症	蜂									
チヨーク病	蜂							23		173
ノゼマ症	蜂							1		8
レプトスピラ症	犬							1		1

病性鑑定材料の採材方法

○病性鑑定材料を送付する前に・・・

呼吸器病や下痢症をはじめとする疾病原因の特定には、発生・拡大状況などの疫学情報が重要となります。発症個体の**個体識別番号、名号、品種、性別、生年月日等**を依頼簿に記載し、詳細な**発生経過、カルテの写し、血液検査データ、ワクチン接種歴等**を必ず添付してください。

材料は、**冷蔵**の上速やかに搬入してください。

1 目的別

	搬入材料	採材道具	採材量及び頭数	採材方法・注意点
呼吸器 病原因	鼻汁 血清 全血	綿棒 採血管(プレイン) 採血管(EDTA)	○綿棒は 1頭につき3本 (ウイルス、細菌、マイコプラズマ用)  ○集団発生の場合は、複数頭必要	○鼻鏡・鼻腔前庭部を アルコール綿花 で拭き、なるべく鼻腔の奥から採材(左右) ○綿棒の乾燥は不可(綿棒の綿球が浸る程度に滅菌生理食塩水またはPBSを入れる) ○採材時期は、 治療前の発症初期 が望ましい ○EDTA 血は、凝固しないように、抗凝固剤をよく転倒混和する ○抗体検査用の後血清は、約3週間後に採材する
下痢 原因	糞便 血清 全血	直検手袋 採血管(プレイン) 採血管(EDTA)	○ ピンポン玉大以上  ○集団発生の場合は、複数頭必要	○採材時期は、治療前の 発症初期 が望ましい ○抗体検査用の後血清は、約3週間後に採材する
流産 原因	胎子 胎盤 母畜血清	忘れずに!	○胎子は必須 ○集団発生の場合は、複数頭必要	
疾病 原因 (病理組 織学的 検査)	臓器		○病変部を 3 cm×3 cm×3 cm 大に切り取る(大きい場合、3 cm 間隔で割を入れる)	○臓器採材後は、速やかに十分量の 10%ホルマリンに浸漬する。 ○送付時は、ホルマリンが漏れないように包装する

2 疾病別

	搬入材料	採材道具	採材量	注意点
牛ウイルス性下痢(BVD)	血清 全血	採血管(プレイン) 採血管(EDTA)	3 mL 以上	○6か月齢未満の場合は、血清と併せて EDTA 血も必ず採材する
牛伝染性リンパ腫(発症疑い)	血清 全血	採血管(プレイン) 採血管(EDTA)	1 mL 以上	○血球破壊により異型リンパ球の確認が困難となるため、採材当日に搬入できない場合は、風乾固定した血液塗抹標本を送付する

3 健康検査

○馬の寄生虫卵検査

- ・事前に検査希望日をご連絡の上、検査馬名簿をFAX等で送信してください。
※検査の混雑状況によってご希望にそえない場合があります。
- ・検査日の午前中に糞便を搬入してください。
- ・検査頭数が30頭を超える場合、結果が出るまで2日以上かかります。

○移動のための検査、種畜衛生検査など

- ・血統登録書の写し(個体識別番号、名号、性別、生年月日、毛色、特徴等が記載されているもの)を添付してください。
- ・採材年月日、採材した獣医師名、証明書の要否、結果の送付先を依頼簿に記載してください。
- ・種畜衛生検査については証明書は必須ではありません。

	検査方法	搬入材料	採材道具	採材量	注意点
牛ヨーネ病	抗体検査	血清	採血管(プレイン)	1 mL 以上	○採材時の月齢が6か月齢以上であることを、必ず確認する
	遺伝子検査 (リアルタイム PCR)	糞便	直検手袋	ピンポン玉大以上	
牛伝染性リンパ腫	抗体検査	血清	採血管(プレイン)	1 mL 以上	
	遺伝子検査(PCR)	全血	採血管(EDTA)	1 mL 以上	○EDTA 血は凝固しないよう十分転倒混和する
馬伝染性貧血	抗体検査	血清	採血管(プレイン)	1 mL 以上	
馬パラチフス	抗体検査	血清	採血管(プレイン)	1 mL 以上	

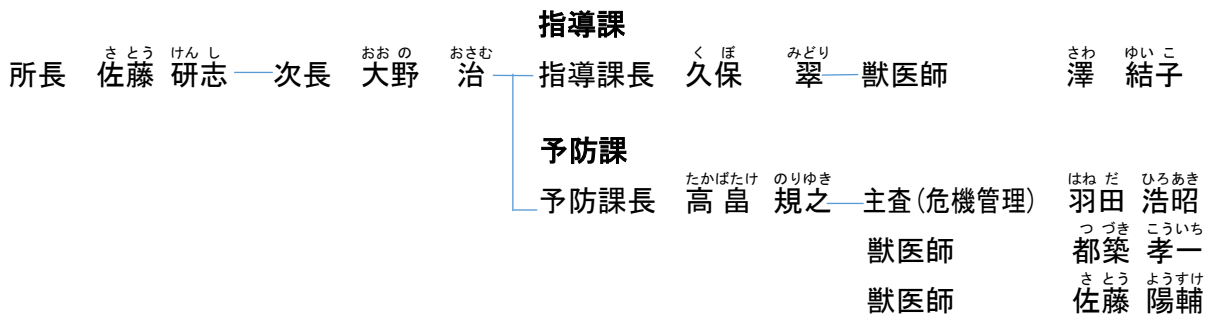
4 月 着 任 職 員 挨 拶



指導課長 久保 翠

網走家畜保健衛生所から異動してきました久保です。
道南は渡島家保以来8年ぶりの勤務で、
やっぱり気候が違うなあと感じています。
主に病性鑑定を通して日高管内の畜産の発展に貢献
出来るよう努力しますので、よろしくお願いいたします。

所 内 体 制 & 緊 急 連 絡 先



【所内異動】	
主査(薬事・安全) 羽田 浩昭	→ 日高家保 主査(危機管理)
【転出】	
指導課長 藤井 誠一	→ 胆振家保 指導課長
主査(危機管理) 橋本 健二郎	→ 退職

北海道日高家畜保健衛生所
〒056-0003 日高郡新ひだか町静内旭町 2 丁目 88 番 5 号
連絡先 TEL:0146-42-1333 FAX:0146-42-0542
緊急連絡先(時間外・休日・夜間) TEL:0146-22-9030 (日高振興局総合案内)
「家畜保健衛生所への連絡」とお伝えください

※当所の携帯電話は廃止となりました